

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月19日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①「主体的・対話的で深い学び」「ICTを活用した授業」等のさらなる推進を通じ、ラーニング・コンパスを意識した教育活動に取り組む。</p> <p>②グローバル教育等を充実させ、将来世界を舞台に活躍するリーダーを育成する。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」「ICTを活用した授業」を引き続き推進し、さらなる組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②グローバル教育等を通じて、日本や他国の文化についての理解を深めるとともに、コミュニケーション力と世界規模で物事を考える力を育む。</p>	<p>①アクティブ・ラーニングやICT機器を効果的に活用した授業を推進し、組織的な授業づくりに努めることで、生徒の主体的な学びをさらに向上させる。</p> <p>②総合的な探究の時間やグローバル教育をさらに充実させ、多様な価値観や幅広い視点をもったものの見方や考え方を育成する。</p>	<p>①教員全体が「ICT機器を活用した授業づくり」や「主体的・対話的な学び」を意識し、生徒の学習意欲を高めることができたか。</p> <p>②総合的な探究の時間や英検受験、海外研修旅行の取組を充実させることができたか。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて年2回の互見週間などを通じ、授業に対する意見の共有ができ、組織的な授業改善を図ることができた。また、大型電子黒板の導入により更なる「ICT機器」を活用した授業展開ができた。</p> <p>②総合的な探究の時間を通して自分を見つめ、自己分析ができる機会が増えた。学校全体の英語技能検定受験者も昨年並みに維持できた。</p>	<p>①教員間で意見を出し合い更なるより良い授業づくりに努めていくために、互見週間を来年度も継続し共有し合う場を設けていく。ICT機器の活用に関しても情報を共有し活用方法を学校全体で考えていく。</p> <p>②今後も海外研修旅行と英語技能検定受験に関して積極的なアナウンスをするとともに、内容の充実や進学に向けての受験意義を周知していきたい。</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにICTを活用した授業が学校全体で取り組まれているが、今後、ICT導入による学業成績の向上についても定量的な評価を行い教育力向上につなげてほしい。</p> <p>・生成AIを活用した授業がより多く導入されると思うが、生成AIではできないライブ感のある授業実践を期待する。</p>	<p>①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて互見週間の実施やICT機器の効率的な活用で授業改善や環境を整えることができた。今後はこの取組によりどのような成果が得られたかの検証が必要と感じる。</p> <p>②英語技能検定の校内実施の継続と受験者数から見える検証をしていく。</p>	<p>①節目のタイミングで生徒からアンケートを取るなど、その時のニーズに対応した授業改善を図っていく。また、授業ならではのライブ感を重要視し、生の授業を追求していく。</p> <p>②検定実施後のアンケートなどを行うことを検討していく。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>①多様性を認め合い主体的に行動しながら支え合い助け合っていく力を育成する。</p> <p>②生徒と信頼関係を深めながら規範意識を醸成するとともに、生徒のウェルビーイングを高めるための支援に取り組む。</p>	<p>①生徒が自ら企画・運営を行う学校行事等を通して生徒の主体的な活動を促進させ、豊かな社会性やリーダーシップを育む。</p> <p>②日々の生活指導や交通安全指導等を通じ規範意識を高めるとともに、生徒個々の課題改善に向け組織的に取り組む。</p>	<p>①よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、資質・能力を育成する。</p> <p>②交通安全大会の幹事校としての役割を果たすとともに、校内でもスクアードストレートや複数回の街頭指導による交通安全意識の向上を深めていく。</p>	<p>①学校行事、部活動において、生徒が主体的に活動できたか。また、公共の精神を養うことができたか。</p> <p>②自転車による事故件数の減少が見られたかどうか。また、「努力義務」である自転車のヘルメット着用率をどれくらい高められるのか。</p>	<p>①学校行事は一般公開を実施し、生徒主体の取組や工夫を発表する機会となった。複数の部活動が大会で成果を上げるなど、活発な活動を支援することができた。</p> <p>②地区交通安全大会・地区学警連の幹事校としての責務をはたすことができた。また、スクアードストレートの実施は、生徒にとって貴重な体験になった。</p>	<p>①学校行事や部活動の運営について、時代に即した新たな仕組みへ積極的に改善を進める。部活動では、生徒がリーダーシップを発揮できるよう支援する。</p> <p>②「自転車のヘルメット着用率」に関しては、生徒会の生徒と共にアンケートの実施や啓蒙活動などを今後も続けていきたい。</p>	<p>・文化祭を見学し、生徒が生き活きと活動している姿から生徒指導が行き届いていると感じた。各生徒が責任を持って言動・行動していることも素晴らしく今後の継続的な対応を期待する。</p>	<p>①体育祭や文化祭では、年々生徒が自ら企画や運営を手掛けるなど、生徒の主体的な取組がより前面に出るようになっており大きな成果である。一方、今後の課題として、気候変動による気温上昇を考慮した運営方法の見直し等が必要である。</p> <p>②交通安全に対する意識づけはある程度できたが「自転車のヘルメット着用率」を高める活動に課題が残った。</p>	<p>①今年度実施した学校行事について、課題を整理・検証した上で、今後は無理や無駄のない運営となるよう、生徒主体で改善策の検討を進めていく。</p> <p>②生徒会との連携はもちろんのこと、他校の情報収集や連携を図ることも今後の課題であると思う。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>①系統的・計画的なキャリア教育を充実させ、生徒に将来の夢や</p>	<p>①キャリア教育をさらに充実させ、職業に対する理解を深め、職業観を育成す</p>	<p>①総合的な探究の時間や進路イベントを通じて職業及上級学校への進学についての理解</p>	<p>①総合的な探究の時間におけるキャリア教育を系統的・計画に行うことができたか。ま</p>	<p>①進路ガイダンス等を行い、職業及び学部等への理解を深めさせ、自己実現に向けた探</p>	<p>①社会人として豊富な経験のある方に講演してもらう場面を設定する。生徒自身</p>	<p>・キャリア教育の充実は今までの生徒には大切な取組であり、</p>	<p>①総合的な探究の時間を使って自らの将来について考えさせたこと</p>	<p>①進路講演会の実施や自身の学校見学の機会を作ることで、</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		<p>職業観を持たせる。</p> <p>②生徒それぞれが希望する進路の実現に向け、組織的・系統的な進路指導・支援に取り組む。</p>	<p>る。</p> <p>②進路データの分析に基づく個別の進路指導を通して、希望する進路実現に向け組織的に支援する。</p>	<p>を深め、将来働くことへの理解を深める。</p> <p>②模試等の外部試験を計画的に実施し、進路実現に向けた高い意識を持たせる。また進路実現に向けた組織的な進路指導を行う。</p>	<p>た職業観について主体的に学び、働くことへの理解を深めることができたか。</p> <p>②模試の平均点や検定等の合格率が上昇したか。模試等の結果をもとに組織的な課題改善等につなげるとともに進路実現に向けた意識を生徒にもたせることができたか。</p>	<p>究活動を実践できた。</p> <p>②模試や英語技能検定の結果データから課題を見つけ、その解決に向けた対策を生徒や教員と共有し、生徒の進路実現に向けて指導することができた。</p>	<p>が自分の興味・関心の幅を広げると同時に、チャレンジする姿勢を育む必要がある。</p> <p>②模試の結果を分析・共有し、学校全体で組織的に改善する。今後も外部検定試験を積極的に受験するように促し、大学受験に活用していく。</p>	<p>既存のガイダンスや講演会を通じて、卒業後の進路の先にある社会や産業をイメージできるようなキャリア教育の展開を期待する。</p>	<p>は自分自身の強みや適性の発見につながった。今後も将来をイメージできるような取組を行っていきたい。</p> <p>②模試や英語技能検定の結果を分析し、生徒の進路実現に方向性を導き出したことは大きな成果である。今後も結果を踏まえた組織的な進路指導を行っていくことが課題である。</p>	<p>進路や職業に対する理解を深めさせる。</p> <p>②外部英語検定試験への受験を促進させることで英語の学習に対する意識の向上を図りたい。また結果を踏まえた個人に対しての進路指導をしていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域の教育力を活用した学びの拡充をさらに推進し、多種多様な生徒の教育ニーズに対応していく。</p> <p>②本校の魅力と特色等について外部に積極的に情報発信するとともに、地域交流、地域貢献を促進させる。</p>	<p>①既存の高大連携校との連携をさらに深め、学びの場のさらなる充実を図る。</p> <p>②学校ホームページ等を活用し本校の教育活動等について外部に積極的に情報発信するとともに、地域と密接に関わりながら地域教育力の中核的な役割を果たす。</p>	<p>①高大連携講座や大学によるガイダンスなどを通して高大連携校との連携をさらに深めるとともに、生徒の進路実現に向けた新規授業を模索する。</p> <p>②各担当者やグループへの積極的な呼びかけにより、学校ホームページを適切に更新する。</p>	<p>①高大連携講座などを通して生徒の学びの場や、進路実現に向けた活動の機会が拡充できたか。</p> <p>②各担当グループに対し、月替わりや行事の前後となる時期に学校ホームページの更新を依頼したか。本校における学校ホームページの管理・更新に係るマニュアルを周知して、活発に更新される方策をとったか。</p>	<p>①高大連携等を活用し、大学の聴講システムや大学病院のボランティア活動に参加した。</p> <p>②各担当者への呼びかけやグループへの協力依頼を行うことはできたが、更新頻度を満足に向上させることができなかった。</p>	<p>①高大連携事業に関しては積極的なアナウンスと新規連携校の開拓を図っていきたい。</p> <p>②更新ができる人頼りになってしまった点や、行事や更新のタイミングを逃してしまった点が課題として残る。次年度はマニュアルをさらに簡潔化し、積極的な呼びかけとともにグループ員が会議などのタイミングで更新するか声を掛け合う。</p>	<p>・キャリア教育と連携した形で高大連携学習も継続していることを評価する。生徒は深く学習・考察する力を持っていると思うので、より深い探究学習につなげて欲しい。</p>	<p>①高大連携講座や大学によるガイダンスなどの重要性を認識させるとともに、生徒の進路実現に向けた新規授業を模索する。</p> <p>②ホームページの更新や、優れたPR活動を行っている学校の取り組みを参考にするなど今後もより一層本校の取り組みを知ってもらう機会を充実させる。</p>	<p>①大学からの案内を積極的に生徒に提示し、主体的に情報収集を行うきっかけを作っていく。</p> <p>②他校の実践例など情報収集をはじめとし、知りたい情報は何かを見極め、効果的な情報発信を行っていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①すべての教員がスクールポリシーに則った教育活動に取り組み、支え合い助け合い文化を職場に築きながら協働体制を確立する。</p> <p>②働き方改革をより一層進めるとともに、不祥事防止に努め県民から信頼される学校づくりに推進する。</p>	<p>①教員間で、「何を学ばせるか」「どんな力を身に付けさせたいか」等について共通理解を図り、全職員で協力しながら日々の教育活動に取り組む。</p> <p>②ノー会議週間を設定する等の業務改善策を実行し働き方改革を進める。</p> <p>・生徒、保護者、県民から信頼されるように、全職員で不祥事防止に強い決意で取り組む。</p>	<p>①日々の授業や生徒会行事と同様に、各種式典および地域貢献活動やD I G研修においても、意図や目的を示して組織的な教育活動となるように努める。</p> <p>②設定されたノー会議週間が機能されるように、月間行事予定の検討の機会等を利用して、職員への周知を図る。オフィス改善の機会を活用するなどした職員室の利用の改善等を図る。</p> <p>・毎回の不祥事防止研修で職員が輪番で講師役を務める。</p>	<p>①各種式典および地域貢献活動やD I G研修において、生徒の変容を促せたか。また、組織的な教育活動が円滑に行われたか。</p> <p>②ノー会議週間の実施状況等により、働き方改革に向けた業務善がなされたか。職員室の利用環境が改善したか。</p> <p>・職員が主体的に研修に参加し不祥事防止の意識に変容は見られたか。</p>	<p>①式典へ真剣に参加する生徒の姿、地域貢献活動への積極的な活動の様子、D I G研修における活発に協働活動に取り組む姿が見られた。生徒は活動の目的を理解して取り組んだと評価できる。</p> <p>②ノー会議週間が積極的に実施された。</p> <p>・不祥事防止に向けた職員の意識が一層高まる機会となった。</p>	<p>①D I G研修について、授業時間内に終えることが難しかった。次年度は実施計画や事前指導等の改善を図り、生徒の学習効果を高めるようにする。</p> <p>②ノー会議週間に関する職員一人ひとりの認識に差があった。新年度当初に再度周知する等の対応が求められる。</p> <p>・不祥事防止研修に関する講師の輪番制を継続して、成果を観察する。</p>	<p>・教職員の働き方改革が問題視されて、本校の教職員も苦慮されていると感じる。</p>	<p>①式典や地域貢献活動等では、能動的に参加する生徒の様子が見られた。D I G研修を効率よく実施できるように改善に取り組む必要がある。</p> <p>②ノー会議週間や職員講師による不祥事防止研修により、教職員の働き方改革や不祥事防止を推進することができた。</p>	<p>①D I G研修に限らず、式典や防災教育を一層効率よく実施できるように、実施計画や事前学習を改善する。</p> <p>②教職員の働き方改革や不祥事防止の推進に向けて、ノー会議週間を改めて周知したり、職員講師による不祥事防止研修を輪番実施する。</p>

